

▶ 第1回 東京都教育ビジョン（第5次）検討委員会 会議要旨

「東京都教育ビジョン（第5次）」策定に向けた基本的な考え方

（1）「東京都教育ビジョン（第4次）」の振り返り

- コロナ禍においてDXが推進。一人1台端末の導入により、学び方や教え方が格段に変化した。
- グローバル人材の育成に向けた取組が充実。使える英語を身に付けられるよう更なる取組が必要。
- 特別支援教室の整備等、特別支援教育が充実。交流及び共同学習を更に充実させていく必要がある。
- 不登校児童・生徒への支援の充実が急務。

（2）「東京都教育ビジョン（第5次）」の方向性について

- 誰一人残さないという方向性と、新しい時代に対応した子供の力を育てていくということの公平性をいかに担保していくかを考える必要がある。
- 一人1台端末によって、デジタル（バーチャル）とリアル（対面）のベストマッチをどう図っていくかが課題である。
- 子供の職業観が狭いと感じる。企業や団体等と連携して、子供たちが明るい未来を感じられるような機会を提供し、職業観や職業選択肢を広げられるようにしたい。
- 客観的な根拠を重視した教育政策のPDCAサイクルの推進が重要。そのためには綿密な事前計画が必要
- 子供から、どういう教育をしてもらいたいかななどを聴き取り、反映していけるとよい。